

令和2年度 練馬区立立野小学校 学校評価の報告

1 評価者等について

- (1) 保護者 ① 実施時期 令和2年12月実施
② 有効回答数 343人(在校児童の71.5%)
③ 方法 質問紙法による
- (2) 児童 ① 実施時期 令和3年1月実施
② 実施人数 313人(3～6年生児童)
③ 方法 質問紙法による
- (3) 教師 保護者・児童の結果を受けて、自分の実践との関連を自由記述。

2 評価項目について

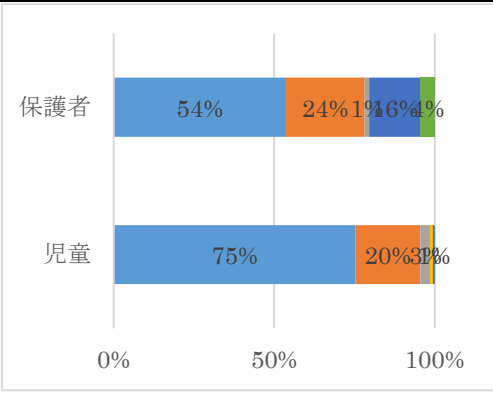
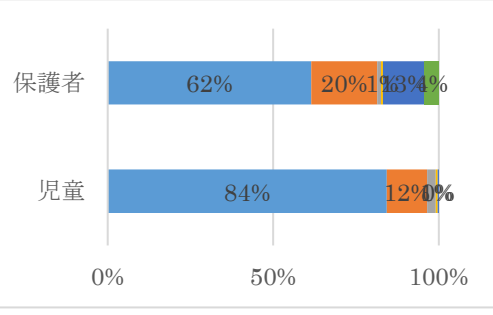
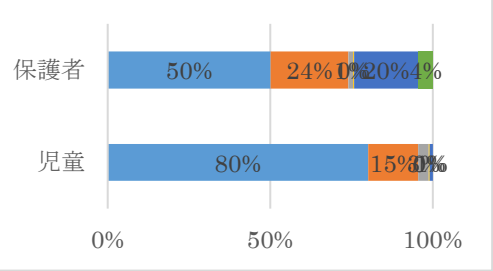
1 はい 2 だいたい 3 あまり 4 ぜんぜん 5 わからない 6 無答

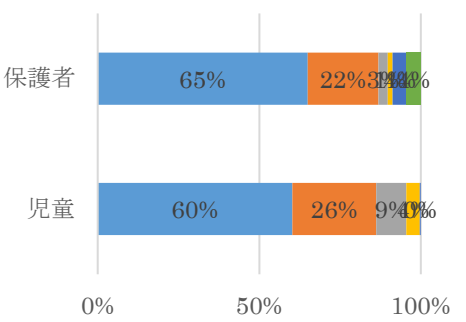
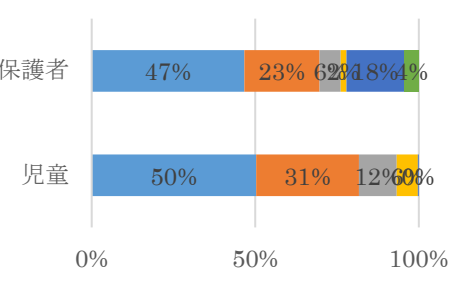
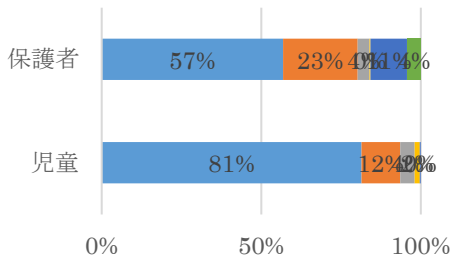
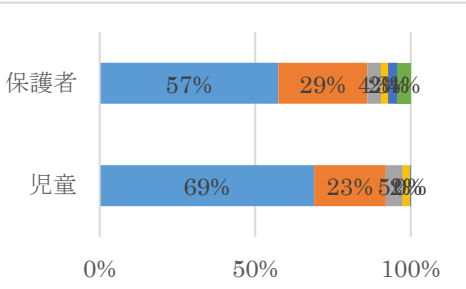
3 アンケートの結果から

① 学校教育目標について

評価者	評価項目—1 あたたかい心をもつ(徳)
保護者	
児童	
<p>保護者87%児童90%が、肯定的な評価である。学校生活の中で友達との関わり方を意識して生活していることがうかがわれる。否定的な回答をしている保護者・児童がおり、生活に関するアンケートの結果や相談状況とも関連付けながら、実態を把握する。一人一人の具体的な支援につなげられるように対応していきたい。教師の指導においては、特に「特別な教科徳」の授業を充実させたことや特別活動の振り返りの際に、自己肯定感がもてるような指導をする工夫が見られた。また、日々の人間関係のトラブルに対しての組織的な対応やふれあい月間での重点的な取組が生かされていた。このような取組の中で家庭との連携も心がけることができ、継続していきたい。</p>	
評価者	評価項目—2 すすんで学ぶ(知)
保護者	
児童	
<p>保護者82%、児童85%が肯定的な評価である。反面、学習に対する態度が積極的ではないと感じられる否定的な評価が他の項目に比べると児童・保護者ともに多い。学習についての配慮として、学力向上講師や学習サポーター等を活用しているが、今後一層一人一人の児童を見守り、学びを保証していくための手立てを工夫したい。「すすんで学ぶ」ことは、これから学力の個人差が開く鍵となる力である。そのため、教師の指導では、「学ぶ楽しさ」を伝えることを大切にしたい。電子黒板やタブレットをはじめとしたICT機器を活用することや児童が面白いと思える課題の教材の設定、話し合い活動等を取り入れながら共に学んでいく楽しさを味わう授業等、工夫して取り組んだ。</p>	
評価者	評価項目—3 つよい体をつくる(体)
保護者	
児童	
<p>保護者77%、児童87%肯定的な評価である。児童と保護者の認識に大きく差がある結果となった。体育の研究に取り組んでいたことを考えると保護者の評価が低めである。コロナ禍であったことの関係が考えられるが、やっていることを伝え切れていないとも考えられ、情報伝達のしかたも考えていきたい。学校全体の取組として持久走カードや縄飛びカードなどが効果的であった。朝の遊びタイムや中休みの遊びについては、感染症の不安から室内遊びの児童も多く、児童によって差が出ていた。今後、本年度の研究成果を具体的に実践していくことや新しい生活様式の中での取組の工夫を推進する。また、食育に関しても、取組を深めていきたい。</p>	

② 学校の取組について

評価者	評価項目—1
保護者	話の聞き方をしっかり指導しながら授業に取り組んでいる。
児童	私たちが見通しをもって取り組めるように、授業の計画について教えてくれる。
	<p>保護者78%、児童95%が肯定的な評価である。特に、児童は計画を意識しながら主体的に学ぼうという様子が見られる。今年度は、参観の機会が少なく、保護者に、児童の様子が十分に周知できなかったために、分からないという回答が多くなっている。学習の様子の伝え方について工夫していきたい。また、家庭学習についても関連付けて考えていきたい。実際の授業の中では、教師の手応えとして、児童の「話を聞く」態度が課題であると感じる場面もあるが、児童自身は「話が聞けている」と思っていることがある。本校では、「立野スタンダード」という学校規律の統一した指導をまとめており、活用をもっと具体化し、共通実践していく。また、話し合い活動を通して、互いに聞き合う力の定着も工夫したい。</p>
評価者	評価項目—2
保護者	授業の中に、話し合い活動の時間や考えを書いたりする時間を設け指導している。
児童	授業の中では、自分の考えや感想を書いたり、友達と話し合ったりする時間を設けてくれている。
	<p>保護者82%、児童96%が肯定的な評価である。授業の中で意識的にこのような時間を取り入れていることが成果となっている。授業の公開が制限されていた本年度は、13%の保護者が「分からない」と回答しており、授業公開以外の方法での指導の工夫を伝えていく必要がある。本年度は、特に体育の時間の中での話し合いを重視して行ってきた。学級活動の中で、児童の話し合いを十分に行ってきた学級は、教科の話し合いも活発化している。以上のような取組を全教科へと広げていきたい。</p>
評価者	評価項目—3
保護者	学習のめあてを児童に示して授業を行い、めあてに沿った評価を行っている。
児童	私たちがめあてをもって学習に取り組めるようにしてくれている。
	<p>保護者74%、児童95%が肯定的な評価である。めあてに沿った学習と評価は、重視されている「主体的な学び」の定着の中で大切にしていきたい内容であり、1単位時間ごとにめあての確認を大事にしている。研究していた体育の授業のみならず他の授業でも意識的に行ってきた。また、本年度から実施されたキャリア・パスポートの作成にも係わる項目である。今後、内容を保護者と共有し、コメントを書いていただく取組もあり、評価項目2と同様、保護者への周知方法を工夫したい。</p>
評価者	評価項目—4
保護者	児童が進んで挨拶をしたり、名前を呼ばれたらしっかり返事をしたりするよう指導している。
児童	私たちが進んであいさつや返事をするように気を付けてくれている。
	<p>保護者79%、児童93%が肯定的な評価である。制限の多い生活の中でも挨拶・返事については、安全に留意しながらも指導をしている成果は感じられる。保護者の評価では、分からない・無答が20%近くになっている。日常での生活の中で、挨拶や返事の面でも児童の成長が実感できるような指導を行ってきたい。教師の実感として、担任への挨拶は定着しているが、他の教職員や地域の方々にも積極的に挨拶をしていくことが課題であり、発達段階に応じた指導が必要と考えている。また、代表委員会児童の活動等キャンペーンや小中一貫教育による児童・生徒の交流を工夫していきたい。</p>

評価者	評価項目—5															
<p>保護者：児童が安心して学校生活を送れるように見守ってしてくれる。 児童：困ったことや心配なことがあると声をかけてくれたり、相談にのってくれたりする。</p>																
 <table border="1"> <caption>評価項目—5のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>肯定的評価</th> <th>肯定的評価未満</th> <th>肯定的評価未満</th> <th>肯定的評価未満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>65%</td> <td>22%</td> <td>3%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>60%</td> <td>26%</td> <td>9%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	肯定的評価	肯定的評価未満	肯定的評価未満	肯定的評価未満	保護者	65%	22%	3%	10%	児童	60%	26%	9%	5%	<p>保護者87%、児童86%が肯定的な評価である。本校では、年3回のいじめに関するアンケート、ひだまりルーム等、児童が相談しやすい場所の設置、スクールカウンセラーの活用、悩みや心配、トラブルなどに対する組織対応等、児童を深く見守るための努力を行っている。また、教師が児童の状況把握をより深めるために、教育相談会議を週一回開いている。職員夕会等で共通理解して、対応策も考えている。そのような対応についての認知度が高まってきているため、保護者と児童の安心感が同程度になっている。一方、児童の中に不安感を抱いている児童がおり、引き続き、早期の対応をより積極的に行っていききたい。</p>
評価者	肯定的評価	肯定的評価未満	肯定的評価未満	肯定的評価未満												
保護者	65%	22%	3%	10%												
児童	60%	26%	9%	5%												
評価者	評価項目—6															
<p>保護者：児童が進んで読書をしたり、学校図書館を利用したりするよう指導している。 児童：読書を勧めたり、学校図書館を利用しやすいようにしたりしてくれている。</p>																
 <table border="1"> <caption>評価項目—6のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>肯定的評価</th> <th>肯定的評価未満</th> <th>肯定的評価未満</th> <th>肯定的評価未満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>47%</td> <td>23%</td> <td>6%</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>50%</td> <td>31%</td> <td>12%</td> <td>6%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	肯定的評価	肯定的評価未満	肯定的評価未満	肯定的評価未満	保護者	47%	23%	6%	24%	児童	50%	31%	12%	6%	<p>保護者70%、児童81%が肯定的な評価である。他の項目に比べると、否定的な評価が多くなっている。今年度は、本校の特色ある取組の「読みママ」の実施ができなかった。また、授業時間の確保のために、朝の読書タイムが国語の学習に振り返られていた。そのため、読書の時間を確保することが難しかったことの影響と考えられる。教師の意見として、読書月間の取組は、「味見読書」など新しい取組があり、有効だったと感じている。日常的な読書に親しめる環境を整えていけるように、重点的に改善を考えていきたい。図書館ボランティアも、感染症対策等、協力が受け入れられる状況になったら実施していきたい。</p>
評価者	肯定的評価	肯定的評価未満	肯定的評価未満	肯定的評価未満												
保護者	47%	23%	6%	24%												
児童	50%	31%	12%	6%												
評価者	評価項目—7															
<p>保護者：児童が運動に親しむようにしている。 児童：中休みや昼休みは、外遊びができるように時間を確保してくれている。</p>																
 <table border="1"> <caption>評価項目—7のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>肯定的評価</th> <th>肯定的評価未満</th> <th>肯定的評価未満</th> <th>肯定的評価未満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>57%</td> <td>23%</td> <td>4%</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>81%</td> <td>12%</td> <td>2%</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	肯定的評価	肯定的評価未満	肯定的評価未満	肯定的評価未満	保護者	57%	23%	4%	16%	児童	81%	12%	2%	3%	<p>保護者80%、児童93%が肯定的な評価である。体育を研究として、様々な取組を継続して取り組んできた。しかし、コロナ禍での制限があった。休み時間を低学年・高学年で分ける設定をしていたが、マスクを外して遊ぶことに抵抗があり、室内で過ごす児童も少なくなかった。次第に、安全性よりも中遊びの方が楽しいと考える児童も増え、教師の心配の種となっていた。感染症対策を図りながら、今後はさらに外遊びを推奨する取組を工夫していきたい。</p>
評価者	肯定的評価	肯定的評価未満	肯定的評価未満	肯定的評価未満												
保護者	57%	23%	4%	16%												
児童	81%	12%	2%	3%												
評価者	評価項目—8															
<p>保護者：学校だよりやホームページ等により、児童の様子等を知らせている。 児童：学校だよりやホームページ等により、私たちの様子をうちの人に知らせてくれている。</p>																
 <table border="1"> <caption>評価項目—8のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>肯定的評価</th> <th>肯定的評価未満</th> <th>肯定的評価未満</th> <th>肯定的評価未満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>57%</td> <td>29%</td> <td>4%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>69%</td> <td>23%</td> <td>5%</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	肯定的評価	肯定的評価未満	肯定的評価未満	肯定的評価未満	保護者	57%	29%	4%	10%	児童	69%	23%	5%	3%	<p>保護者86%、児童92%が肯定的な評価である。ホームページの更新は、学年ごとに定期的に行うようにしてきたので、保護者の高評価につながったと思われる。ホームページの閲覧数も高まった。ただし、情報伝達としての意味合いが大きく、様子を知らせるにはセキュリティ上の制限があるので、引き続き、紙ベースでの情報発信も工夫していきたい。来年度は、学校便り等の内容について、無駄なく、必要な情報を確実に伝えられるよう改善していく。</p>
評価者	肯定的評価	肯定的評価未満	肯定的評価未満	肯定的評価未満												
保護者	57%	29%	4%	10%												
児童	69%	23%	5%	3%												

評価者	評価項目—9																		
保護者：ゲストティーチャーや学習ボランティア（保護者を含む）等、外部の方と連携して教育を進めている。 児童：私たちの学習のために、ゲストティーチャーやボランティアの方を呼んでくれる。																			
<table border="1"> <caption>評価項目—9の割合</caption> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>Blue</th> <th>Orange</th> <th>Grey</th> <th>Dark Blue</th> <th>Green</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>35%</td> <td>19%</td> <td>51%</td> <td>35%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>63%</td> <td>30%</td> <td>4%</td> <td>3%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	Blue	Orange	Grey	Dark Blue	Green	保護者	35%	19%	51%	35%	5%	児童	63%	30%	4%	3%	0%	<p>保護者54%、児童93%が肯定的な評価である。ゲストティーチャーに関しては、アンケートを採った以降に実施されたものが多かった。そのため、児童と保護者の評価が異なっていると考える。今年度も工夫して出前授業等がほぼできている。教師の意見でも、児童の意欲が高まったという成果が上げられている。地域連携事業について、地域連携コーディネーターの方との連携等もきちんと報告していく必要がある。また、児童の学習・生活支援のための人材確保を行ってきたことも知らせていきたい。来年度は、さらに発信して人材活用と地域に根ざした教育活動を宣伝していく。</p>
評価者	Blue	Orange	Grey	Dark Blue	Green														
保護者	35%	19%	51%	35%	5%														
児童	63%	30%	4%	3%	0%														

③ 自分自身のことについて(抜粋)

アンケートには、ここの評価内容についての自己評価と保護者の方のお子さんの評価も行っている。特徴的な以下の項目である。

評価者																			
保護者：児童は家庭で進んで学習に取り組んでいる。 児童：家庭で進んで学習に取り組んでいますか。																			
<table border="1"> <caption>家庭で進んで学習に取り組んでいる割合</caption> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>Blue</th> <th>Orange</th> <th>Grey</th> <th>Green</th> <th>Dark Blue</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>36%</td> <td>44%</td> <td>13%</td> <td>3%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>70%</td> <td>26%</td> <td>3%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	Blue	Orange	Grey	Green	Dark Blue	保護者	36%	44%	13%	3%	4%	児童	70%	26%	3%	1%	0%	<p>保護者80%、児童86%が肯定的な評価である。児童は、自分なりにはきちんと行っていると考えているが、保護者の認識とで若干のずれが生じている。学校への相談内容としても、家庭学習のことについての内容が多い。学年による差や習い事等による放課後の自由時間の差等を考慮しながら、「立野小スタンダード」ともいうべき、共通の対応を工夫していきたい。また、タブレット端末を生かして、可能性を広げていくことで、学ぶ意欲の向上へとつなげていきたい。</p>
評価者	Blue	Orange	Grey	Green	Dark Blue														
保護者	36%	44%	13%	3%	4%														
児童	70%	26%	3%	1%	0%														

4 保護者の皆様からの自由記述より

(1) 継続を望む意見

- ・担任に困っていることなどを話せること
- ・コロナ渦における感染症対策を講じた上での細やかな指導
- ・保護者会の Zoom 対応
- ・ホームページの充実
- ・学校からの手紙やメールによる大変丁寧な説明

(2) 改善等を望む意見

- ・ICTの活用や授業改善に関すること
- ・トイレの老朽化、雨漏り等施設面の改善に関すること
- ・生活、交通、災害等、児童の安全に関すること

【最後に】

今年度は、保護者・地域の皆様に学校にお越しいただく機会が制限されてしまい、学校評価アンケートへのご協力も難しかったかと思われまます。そうした中でも、教職員への労いの言葉も多くいただき、何よりの励ましとなりました。いただきましたご意見につきましては、スペースの関係で最低限度の表記となっておりますが、保護者、地域の皆様のお声を真摯に受け止め、工夫・改善に努めて参ります。「学校は、地域とともに、子供のためにある」との教育理念に基づき、アンケートの結果のみならず、今後も、立野の子らを真ん中にして、相互に手を携えながら教育活動の充実をと願っております。引き続き、ご理解とご協力の程をよろしくお願いいたします。